

越前市教育振興ビジョン（素案）パブリックコメント実施結果報告書

- 1 期間 平成21年12月15日から平成22年1月12日まで  
 2 方法 12月市広報、市ホームページで周知  
 募集期間内は、教育委員会教育総務課、市総合窓口、今立総合支所、各地区公民館、中央図書館に資料を設置

- 3 提出があった意見  
 5人（5件 内3件については、内容的に直接関係がない。）

	40代	50代	60代	70代	未記入	合計
男性		1	1	1		3
女性	1					1
未記入					1	1
合計	1	1	1	1	1	5

意見の内容等

意見	該当する箇所	考え方・対応
<p>越前市のこどもたちに、外遊びの「時間・場所・仲間」を保障しよう！</p> <p>（提案）</p> <p>小学校区単位にこどもの遊び場（外遊びの）を最低一箇所設定する。</p> <p>当面、月1回（日曜日）、こどもの外遊びの日を設定する。</p> <p>現有の「こどもを見守る会」の活動に「こどもの外遊びを見守る活動」を付け加えてはどうか。もし無理ならば「こどもの外遊びを見守る会」を別に組織する。</p> <p>こどもの外遊びガイドブックを作成し、年度初めに小中学生を通して保護者に配付する。</p> <p>市は必要な経費を予算化する。（印刷代、こども保険料など）</p> <p>上記提案を具体的に推進させるため、市の関係各種団体代表参加による「こどもの外遊びネット越前」（仮称）を組織する。</p> <p>（提案理由）</p> <p>こどもは、母の胎内で、地球に生命が誕生してから人類出現までの40億年の生命進化の過程を辿りながら産まれてくる。産まれた後も、その進化の過程を追体験しながら発達するとい</p>	人間力を高める教育の充実	<p>ご意見を踏まえて、以下のとおり、「次代を担う青少年の健全育成」の項の「目指すべき方向」の記載の中に、自由な外遊びを加筆しました。今後、様々な事業にご意見の趣旨が反映できるよう取り組みます。</p> <p>人間力を高める教育の充実</p> <p>3 青少年の健全育成 略</p> <p>(1) 次代を担う青少年の健全育成</p>

われている。つまり、こどもは、自然（海、川、山、他のすべての生物など）と深く関わりながら発達するのである。

こどもは、本来、外遊びを好む。生き物を捕まえる。草花を摘む。木の実を拾う。水遊びをする。どろんこ遊びをする。火遊びをする。こどもは、束縛さえしなければ、まるで縄文人のように遊ぶ。本能(DNA)がそうさせるのである。

半世紀ほど前には、田んぼや畑、小川や野原、村のお寺や神社などで、こどもの群れて遊ぶ姿があった。今は外へ出ても、こどもの歓声が聞こえない。それは、大人の社会がこどもの本来の欲求を永年抑圧し続けてきたことによる。

こどもの正常な発達の段階を無視・抑圧すれば、その人間の将来に必ず歪みが生じる。(極端な例を挙げれば、産まれて間もないこどもに直立二足歩行を強要するようなもの)

そして、やがては、日本社会の未来に取り返しのつかない深刻な状況をもたらすことになるであろう。もうすでにその兆候がある。不登校、いじめ、ひきこもり、暴力、未成年犯罪、自殺等等・・・

このような現状を一刻も早く改善しなければならないと思う。ではどうすればよいか？ 外で群れて遊ぶこどもの姿がどの地域にも当たり前に見られるようにすることである。すなわち子ども社会の再構築を目指す施策が必要である。

そのためには、今、すべての大人が、このことを認識・自覚し、こどもに温かい手を差し向けるべきである。提案は、その一試案である。

今、全国的にも、こどもの外遊びについて、NPOや各種団体などによるネットワークが広がっている。ごく最近でも、放送大学(19チャンネル)で、全国の実践例が紹介されたばかりである。だが、私の知る限りでは、自治体として教育ビジョンに位置付け取り組んでいるところはまだ無いと思う。こどもの人権擁護を謳う越前市が、全国に先駆けて教育ビジョンに掲げる意義は極めて大きいと思う。

ひの自然学校は、設立(2004年3月)から

<p>7年目を迎えようとしている。ひの自然学校は、あたご山自然学校の経験と二年間にわたる野中真理子監督「こどもの時間」(ドキュメンタリー映画)の上映活動(今立芸術館と武生文化センターで1500人以上の人がこの映画を観た。)の中から生まれた。設立後、こどもの自然遊びを重視したいろいろな試みを展開してきた。</p> <p>「川で遊ぼう!」は、日野川で4回、今立水間川で2回、計6回実施した。「海で遊ぼう!」は、黒埼海岸で1回、河野の海岸で1回、五幡海岸で2回、計4回実施した。「山で遊ぼう!」は、日野山1回、塩の道1回、権現山で1回、白山の山で1回、計4回実施した。自然学校広場(白崎町)での遊びは、「粘土で遊ぼう!」「トンギコ、木と遊ぼう!」「モチをつこう」「ホタルと遊ぼう!」「馬と遊ぼう!」「草木染めをしよう!」など、計約20回実施した。(今では、近所のこどもたちの遊び場にもなっている。)</p> <p>ひの自然学校の活動を通して、今、こどもたちに、外遊びの時間と場所と仲間を保障してやりさえすれば、必ず、こどもは、こども本来の姿を取り戻すものと確信している。</p>		
<p>地域や会社など宗教をも含めての社会の教育力が低下している昨今、その一因として、家庭の教育力の低下が大きいと言わざるを得ません。そしてその根底には最近よく言われる「絆」が失われていく社会があると考えます。特に子供達は横の繋がりは持ち易いのですが、縦の繋がりが持ちにくいように思います。</p> <p>そこで、私は最近全国的に広がりつつある「聞き書き」を学校教育の一部に取り入れることを提案します。</p> <p>「聞き書き」とは人の話を聞き、文字に残すことですが、特にお年寄り(祖父・祖母など)からその歩んできた人生や思い出を聞くことを通して地域のあるいは現代の歴史や昔の技術まで学べるに違いありません。さらに子供達は聞く力・書く力・話す力を付けることができ、何よりも縦の絆の中で自分が生まれてきたことを実感するでしょう。そしてお年寄りたちはその事によって自身の人生を振り返ることができ、</p>	<p>人間力を高める教育の充実</p>	<p>児童生徒の聞く力や書く力の育成については国語の学習に指導を行っています。また、地域の歴史や地域の方の経験談を直接聞く学習も各学校の取り組みとして実施しています。</p> <p>教育振興ビジョンの策定に当たっては、「特色ある学校づくりの推進」や「学力向上のための教育活動と学習支援の推進」の項目の中で、地域の皆様のご協力をいただきながら児童生徒の幅広い学力の育成をめざすことを記載しています。</p> <p>「聞き書き」につきましても、一つの方法として各学校の取り組みの中で進めてまいります。</p>

子供達によって大いに癒されるはずで

す。また、今急がれる理由として生きた証人として戦争体験を語れる人が少なくなり、これを失うことはこの国にとって大きな損失であろうと考えます。

『人は人からしか学べない』脳科学者茂木健一郎の言葉です。そして、その多くは家庭で学ぶのです。低下した家庭の教育力に少しの手助けができればよいと思います。

「聞き書き」についてはご存知の方も多いと思いますので詳しくは述べませんので、お調べ下されれば幸甚です。